

道の駅の知見を活用したアグロツーリズム推進による農業振興と防災環境の向上（2018年～2023年）



インドネシアに道の駅！

■ 実施団体：

千葉県南房総市
株式会社ちば南房総

■ 対象国・地域：インドネシア国
北スラウェシ州トモホン市

■ 現地カウンターパート
農業省、トモホン市

■ 協力内容：

- ・観光案内所や休憩所、直売所、駐車場を備えた道の駅を建設し、運営のノウハウを伝授。
- ・道の駅には住民の避難所となる防災機能を持たせた施設を整備。

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・南房総市と株式会社ちば南房総が「インドネシア国官民連携型農業振興活性化支援情報収集・調査事業」に参加。
- ・南房総市からは、観光庁の【観光カリスマ百選】にも選ばれた加藤文男さんをプロジェクトマネージャーに選出。

■ 事業実施の背景：

- ・トモホン市は住民の65%は農民だが平均耕作面積は0.3h未満で所得が低く後継者不足や農産品の付加価値向上が課題だった。また、活火山地帯であるため住民や観光客の避難場所を備えた施設が求められていた。



インドネシア国の課題と成果

課題① トモホン市は農家収入向上。野菜の有機栽培を推進しているものの、販路が限られている。

成果① 農民売店を併設する道の駅「PAKEWA」が開設され、新たな販路が生まれた。直売場では、有機野菜や花き、加工品や工芸品等を販売。

課題② トモホン市は活火山地帯にあり、緊急時に住民や観光客の避難場所の整備が課題となっていた。

成果② 道の駅に隣接する避難施設に、生活用水確保のための貯水槽や非常用電源設備など、防災機能をもたせた。

事業の波及効果

！ 農家の出荷価格倍増！

- ・有機栽培農家の一部は、大手外食チェーンと契約を締結し、出荷価格が2倍となった例も見られた。有機野菜栽培の生産意欲は高く、道の駅農民売店での販売への期待が高まっている。

！ 拡がりをみせる道の駅の輪

- ・すでに道の駅がある南スラウェシ州が、トモホン市との交流を望んでおり、相互交流による機能性と地域振興の向上と、“道の駅”の他地域への普及も期待。